

地盤工学会継続教育 (G-CPD) 制度 本格運用 1 年を経て (その 1)

地盤工学会継続教育システム委員会

1. はじめに

『地盤工学会継続教育 (G-CPD) 制度』の本格運用が 2003 年 4 月から始まり、ちょうど 1 年が経ちました。これまで、何度 JGS カードをリーダーに通されたことでしょうか？

本制度は、2001 年 6 月に発足した地盤工学会継続教育実施委員会(委員長:廣谷彰彦オリエンタルコンサルタント社長)の下、その幹事グループが精力的に開発し、試行・暫定期間を経て本格運用となりました。この本格運用をもって、同委員会は 2003 年 5 月に終了いたしました。地盤工学会継続教育システム委員会は 本制度の管理や積み残された課題を検討するために、会員・支部部会所管の常設委員会として、2003 年 4 月に発足いたしました。そのメンバーは、表-1 のとおりです。

本文では、G-CPD システムの新機能を紹介するとともに、会員が参加し登録した各種イベントの分析結果についても示します。

表-1 地盤工学会継続教育システム委員会の構成

会 務	氏 名	所 属
委員長	片桐雅明	日建設計中瀬土質研究所
委員長代理	伊藤政人	大林組東京本社土木本部
委員	石倉正英	東亜建設工業情報システム部
委員	今野善雄	東京ソルサーチ横浜支店
委員	佐々木一好	基礎地盤コンサルタンツ関東支社
委員	田中基裕	国土交通省大臣官房技術調査課
委員	真野英之	清水建設技術研究所
委員	宮田喜壽	防衛大学校システム工学群
委員	渡部要一	港湾空港技術研究所
アドバイザー	岸田隆夫	東亜建設工業技術研究所
アドバイザー	本多 眞	清水建設技術研究所
アドバイザー	加藤俊昭	地盤工学会

2. G-CPD システムの新機能

今年度 G-CPD システムはイベント登録システム等の管理系システムの改善に加え、データ分析機能を追加いたしました。ここでは新しく装備されたデータ分析機能についてご紹介いたします。

地盤工学会ホームページの「G-CPD システム」をクリックし(図-1 参照)、会員専用ページにログインして「CPD データ分析結果」をクリックし、表示させたいグラフをチェックしてください。以下のような分析結果グラフが表示されます。



図-1 会員専用ページ

2.1 年齢別 CPD 登録単位数グラフ

年齢別に CPD 登録単位数の傾向を見られます(図-2 参照)。これには、各年齢層の平均登録ポイントが表示されますので、ご自身の獲得ポイントとの比較が行えます。

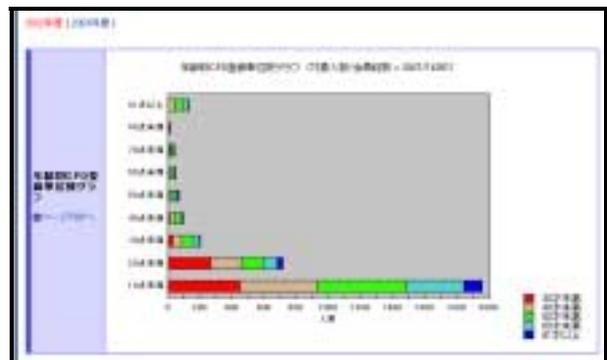


図-2 年齢別 CPD 登録単位数グラフ (2002 年度)

2.2 教育形態別 CPD 登録単位数グラフ

教育形態別に CPD 登録単位数を見ることができません。ご自身の取得傾向と比較してみてください。教育形態の区分は以下の通りです。

- ・ 講習会・研修会・シンポジウム等の参加
- ・ 論文等の発表 (図-3 参照)
- ・ 企業内研修
- ・ 技術指導
- ・ 産業界における業務経験
- ・ その他

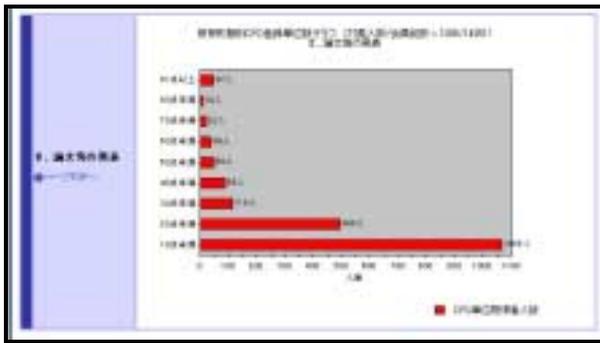


図-3 教育形態別グラフの例（2002 年度）

2.3 過去5年の動向

上記のグラフは、過去5年（2002 年度～）に遡って、年度毎の分析結果や CPD 取得ポイント等の推移を確認することができます。APEC エンジニアの登録要件等では、5 年間で 250 ポイントの取得が挙げられています。登録者の動向に対してご自身のポイントがどの程度か、といった目安としてお役に立てるものと考えています。

これらの機能は、個人会員、及び CPD メンバーの方であれば、専用ホームページからどなたでも簡単に利用できますのでご活用下さい。

3. 新機能を用いた 2002 年度のデータ分析結果

管理者用には更に高度な分析機能を付加しました。この機能によって得られた 2002 年度（2002 年 4 月 1 日～2003 年 3 月 31 日）の分析結果を以下に示します。

図-4 は、2002 年度の 1 年間における CPD 登録者数と年齢分布です。CPD 会員（＝学会員＋特別会員会社の CPD メンバー）は 50 代が最も多く、30 才未満が少ない逆ピラミッドとなっていますが、CPD ポイントを登録した人の数は各年代でほぼ等しくなっています。WEB サービス利用者が各年代とも極端に少ないのは、WEB 利用のカウンタを取り始めたのが 2002 年度末であったためです。

図-2 に、2002 年度の 1 年間における CPD 登録単位数の分布を年齢分布とともに示します。10 点未満（0 点を除く）の会員数は 2000 人近くもおります。一方、81 点以上獲得した会員は 200 人近くおり、さらに、1 年間での獲得ポイントの目安である 50 点をクリアした会員は 250 人以上に達しています。

年齢分布を見ますと、10 点未満、20 点未満の低得点グループでは、各年代ともほぼ同程度もしくは 30 才未満が多い傾向にあります。しかしながら、50 点以上の高得点グループでは 30 才未満の会員が少ないことがわかります。

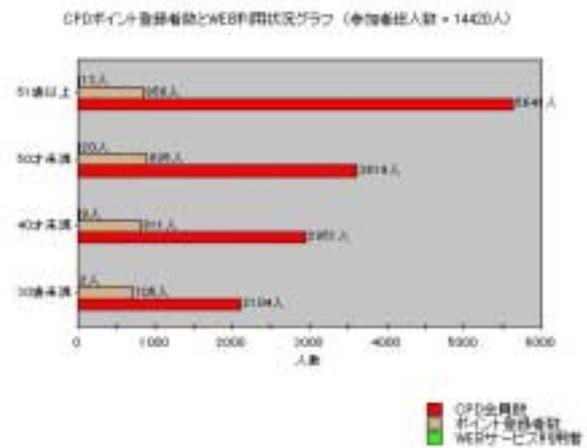


図-4 2002 年度の CPD 登録者数と年齢分布

今後もこうした分析や、講習会毎あるいは講習会カテゴリ毎の登録者数など、さらなる細かい分析により、会員の満足度が高い学会となるよう本システムを活用していきたいと考えております。

4. あとがき

お手持ちの JGS カードは、2002 年 4 月にお送りいたしました。そのカード裏面には、学会の事務局の住所として、神田淡路町が記載されています。この 4 月から、地盤工学会は千石に新設した会館で事務を執ります。それにしたがって、事務局の住所が変わります。しかしながら、新住所を記載した新しいカードの発行は考えていません。これは磁気カードの寿命として最低 5 年は保障できるということからの判断です。

JGS カードを紛失したことが判明したら、事務局にご連絡ください。新住所が記載された新しい JGS カードを実費にてお送りいたします。

今回は、G-CPD 制度の新システムならびに登録された記録の分析を紹介いたしました。ぜひ一度、学会のホームページからご自身の専用ページに入り、ご自身の継続教育としての記録（場合によっては、学会活動の記録）をご確認ください。そして、多くの会員が登録した動向と比較し、ご自身の継続教育の目標を立ててみてください。

次号以降、本システム委員会で検討してきました各種検討事項を順次ご報告していきます。G-CPD のシステムに対するご意見・ご要望がございましたら、下記アドレスまでお寄せください。

<E-mail : jgs@jiban.or.jp>

（文責：石倉正英 東亜建設工業㈱）、
伊藤政人 ㈱大林組、
片桐雅明 ㈱日建設計）